

## <山行記録>

## 劔岳 (2,999m)

日 時：2012. 8. 1 (水)～2 (木)

岡本

### <コースタイム>

8月1日 6:20 馬場島→7:29 展望台→8:58 1,600m 道標→10:04 1,921ピーク→11:13 早月小屋

8月2日 5:25 早月小屋→6:26 2,614ピーク→8:03 劔岳山頂 (8:23 発) →9:46 2,614ピーク→  
10:38 早月小屋 (10:53 発) →11:36 1,921ピーク→12:14 1,600 道標→13:30 展望台  
→14:05 馬場島

早月尾根から劔岳を目指す。喧噪とした室堂を避けることと、同じ登るなら麓からじっくりと歩きたいということで、このコースを選択。何時ものように、未明に家を出る。少し疲れるが、麓での1泊の節約と、渋滞がなく高速料金が安いのが魅力だ。

高速道路が富山平野にでると、薄い朝靄と逆光の為、立山から薬師岳へ連なる北アルプス連山が美しくシルエットのように見える。快晴の気持ちの良い朝だ。立山ICを出て、一路、馬場島に向かう。

馬場島に6時20分頃に着いた。予想に反し公益駐車場はガラガラで、隣のキャンプ場も3～4張りしかテントがない。落ち着いた静かな高原のいい雰囲気である。早速、途中のコンビニで買ったおにぎりを食べ、出発準備をする。今日は、早月小屋までの予定で、この時間だと午前中に着きそうなので、少しゆっくりと登ることにする。

駐車場から少し舗装道路を歩き、左手の芝生の中を進んで



いくと登山口の表示があり、いきなり急な坂道から始まる。樹林帯の中の急登が続き、その後暫く比較的平坦な道が続く。が、それもつかの間で、また、急な坂道が続く。その分高度が稼げる。1時間程歩くと、急に展望の開ける所に着き、そこに標高1,000mの標識があり、少し休憩する。ここからは、劔岳から北に連なる岩稜の一部が見え、何となく劔岳に来た気分になる。

更に、樹林帯の急登を進むが、景色はあまり見えない。この辺りは樹種も様々で、原生林に近い雰囲気であり、奈良県で植林した杉や檜の中を歩くのに比べ、落ち着いた気分になる。突然杉の巨木が道を塞ぐ。樹齡は見当も付かないが、遙か昔からこの尾根を見守ってきた鎮守神の風貌を感じさせる。

1,200mを過ぎた辺りから、徐々に木々の間から景色が見えるようになる。その分、気持ちは和らぐが、今日は本当に風がなく、額からぽとぽと落ちる汗が止まらない。1,600mの標識のところベンチがあり、展望もだいぶ開けるようになる。正面に赤谷尾根と思われる尾根が迫り、猫又山方面もよく見える。あまり早くついても仕方ないので、ここで少し休む。



今日のコースの標高差は1,450mだから、もう半分以上登ったことになる。しかし、高度を稼いでも気温の上昇に追いつかないようで、いっこうに涼しさが感じられない。もう少し風でも吹いてくれないかと思いながら、一步一步足を前にやる。樹林帯が続くものの木々の隙間か

らの少しずつ展望が開けるようになる。

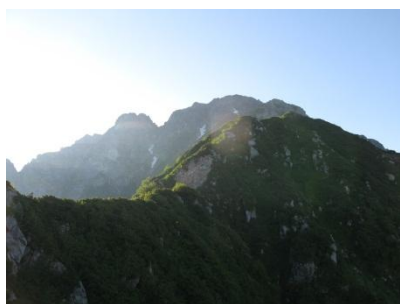
2,000m地点も越え、もうすぐかと思つた途端、迂回路に入る。迂回路は木の根の間を這う滑り易い急斜面の道だ。途中下山客一人に会つたが、ここで初めて登りの登山者に会う。単独行と、夫婦連れの計3人だが、皆も悪戦苦闘しているようだ。少し道を譲ってもらいマイペースで登る。しかし、この迂回路が中々終わらない。小屋までもう少しと言うのに、この道は何だという気分である。

突然、前が開け、元々の登山道と合流する。そこを少し行くと小屋の手前、2,224mのピークに出る。今日初めて360度の景色が見える場所だ。早月小屋は目の前に見え、そこから劔岳まで続く早月尾根が見える。また、劔岳から北へ続く岩稜や、反対側を見れば大日岳から劔御前にかけての山々もよく見える。まだ、12時にもなっていないので、ここで休憩し、景色を楽しんでから小屋に向かう。

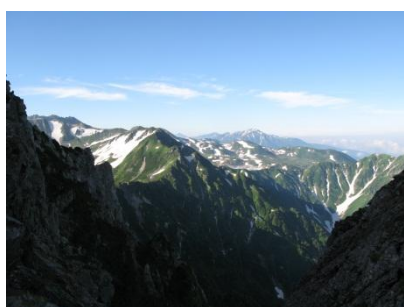


小屋に着いたが、まだ、客は1人だけだ。今日は客が少なく、好きな所に寝て貰えば良いとのことだ。取りあえず昼前でもあり、ビールでも飲みながら、行動食を食べる。後は夕食まで寝るだけだ。さすがに標高2,200mだけのことはあり、小屋の中は涼しく気持ちがいい。徹夜で走つたこともあり、そのまま暫く寝てしまった。

翌日は、4時半頃に起きる。早いグループはもう出発していない。朝食を済ませ5時半前に小屋を出る。早朝で、劔岳の陰ということもあり、空気は冷たく気持ち良かった。が、いきなり



始まる急登に、たちまち大粒の汗がぼとぼと落ちる。少し樹林帯の中を歩くと展望のきく尾根に出る。徐々に岩稜になり、正面には劔岳、右手には室堂からその向こうに続く薬師岳方面、左手には劔岳から猫又山に続く険しい岩稜などがよく見える。天気も良く、おまけに少し風もあり、昨日とは違い、非常に心地よい気分



で登れる。残雪を越えると2,600m地点だ。この辺りになると、あちこちに高山植物も綺麗に見える。この高度になると、右手には室堂も見下ろせるようになってくる。突然、何か前に気配がする。雷鳥の親子だ。子供が4匹も一緒だ。こんな岩場でよく頑張っているなあと感じながら暫く眺めている。



この辺りから鎖場が始まる。急な登りが続くが、景色は本当に素晴らしく、疲れをあまり感じさせない。劔尾根や小窓尾根の荒々しい岩稜も目の前に迫る。雪渓も多く、青い空と、雪渓を抱きかかえた緑と白の遠望と、眼前の灰色の岩石のコントラストが美しい。



雄山方面を望み、最後の岩場を登る。振り返ると登ってきた早月尾根も綺麗に見える。登り切ったところが剣沢との分岐点だ。頂上は目の前に見えている。



快晴の頂上に着く。雄山から続く北アルプスの峰嶺や白馬岳をはじめとする後立山連山もよく見える。素晴らしい360度の大パノラマだ。雨男の異名を持つ自分にとっては中々味わえない景色だ。



暫く、景色を眺める、が、今から標高差 2,200mを下りないといけない。素晴らしい景色に未練を残しながら、ほどほどの休憩を取り、仕方なく下山を始める。鎖場の下山路が続く。慎重に足場を選びながらゆっくりと歩く。岩肌に吹く風が心地よい。陽は徐々に昇り、高度は段々に下がる。下りと言うものの、汗が額に滲む。2,600m位まで下りると登りと変わらないくらいの汗がぼたぼた落ち始める。登りの時は素晴らしいと思って歩いていた景色も、人の感覚も身勝手なもので、感動も薄れ陳腐に見えてくる。

漸く早月小屋に到着した。剣岳往復に5時間余り掛かった。ここで昼食を取り出発する。まだここから 1,450m下りないといけないと思うと気も重い。ここから下は殆ど樹林帯の中で景色もあまり見えず、昨日同様、風も殆どない。冷たい空気に馴染んだ体には、この暑さが堪える。後は、ただ、ひたすら堪え忍んで歩くだけである。

以上